
*** 愛 逢 傘 ***

ヒトリネコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

* 愛逢傘 *

【Nコード】

N2006E

【作者名】

ヒトリネコ

【あらすじ】

素直な少女に恋をした素直になれない少年が、ある雨の日ほんの少し素直になる。どこにでもある、それだけの話。

俺は彼女のが好きだ。

でも、この想いを告げることができない。

今の関係を崩してしまうことが、怖くてしようがないから。

だから、彼女の心に一步、近づくとできないでいた。

＊ 愛逢傘 ＊
あい あい がさ

俺の名前は『宮島 修』
みやじま しゅう

あまり目立たない、影が薄いとよく言われるこの学校の生徒。
そんな俺には、好きな人がいた。

「おっはよー！修！」

「よっ」

元気で明るい声で俺の名前を呼んでいるのは『城下 由梨』。
しろした ゆり
いつでもどんな時でも、元気ハツラツな女の子。

彼女は、素直で真っ直ぐな心を持っている。

俺とは違うその部分に惹かれたんだと、俺は思っている。

はつきりしない事は、俺の中にたくさんあった。

でも、これだけは確かだ。

“ 俺は『由梨』のが好きだ ”

この気持ちだけは変えられない。

それなのに、俺は素直になることができない。
彼女とは“真反対”の存在だった。
だから、彼女からはきつと、いつまでもずっと“友達”のままなの
だろう。

俺は怖かった。

授業を終えて、放課後。

俺は、彼女に告白しようとした。
でも……。

「なあ、由梨……」

「ん？どうしたの？」

「あ、あのさ……その……何ていうか……」

「だから、どうしたの？」

その後、結局俺は「何でもない」と言い逃れ、思いを告げられなかつた。

どうして俺は素直になれないんだろう……。

俺はこの日、もう無理だと悟った。

次の日。

少し遅刻しそうになったが、それよりも精神的に疲れていた。

……はあ……もういいか……。

そんなふて腐れた気持ちと一緒に、学校に登校した。

学校で由梨に会つと、昨日のことを尋ねられた。

もちろん……。

「本当に何でもねえよ」

と、言っただけだった。

正直になれるチャンスはもう来ない。

そう思っていた。

授業が終わり、放課後のことだった。

雨が降ってきた。

傘を持つてくるのを忘れて、正直こまった。

昇降口で雨がやむのを待っていたときだった。

由梨がやってきた。

「あ、修!!どうしたの?」

「傘忘れた」

何の前置きもなく唐突にそう言うと、由梨は突然笑い出した。

「何がおかしいんだよ?」

「うっん、何でもないよ」

そう言くと、由梨は俺に傘を渡した。

「私の傘使っていいよ」

「いいよ。お前が使えよ」

俺がそう言って彼女に傘を返すと、むすっとした。

「むうゝ・・・じゃあ、どうする?」

「だから、お前がそれ使って帰ればいいじゃん」

「まただ・・・」

俺は由梨の気遣いが嬉しいはずなのに、心にも無いことを言ってしまう。

だから、俺は素直になれないんだ。

そう思ったとき、由梨からとんでもない言葉が飛び出た。

「そうだ!!一緒に帰ろう!!それが一番いいよ!!うん、私って天才!!」

「・・・は?」

由梨に聞き返すと、顔を赤くして目を逸らした。

どうしたのだろうか・・・?

「だ、だから・・・あいあいがさ“相合傘”ってこと、だよ・・・」

「え!?!いや、でも、そんなの、こっ恥ずかしいじゃんかよ」

すると、由梨はさらにむすっとした。

「いいじゃん。一緒に帰ろう、ね？」

「……」

俺はその時、わかってしまったような気がする。

「……もしかしたら、由梨も友達ラインの境界線を超えようとしてるのかもしれない……」

「……素直な由梨も、俺みたいに素直になれない部分があるのかも
しれない……」

「……俺が素直になれば、由梨のこともわかってあげられるかもし
れない……」

俺は頭を掻きながら、返事を返した。

「……わりいな。入れてってくれ」

「……うん……いいよ……」

ある雨の日、修は少し素直になれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2006e/>

* 愛 逢 傘 *

2010年10月21日02時37分発行